

**令和5年(2023年)7月10日に  
福岡県、佐賀県、大分県（九州北部地方）で  
線状降水帯が発生した事例**

---

令和5年7月 気象庁大気海洋部

# 気象の概況、線状降水帯に関する情報の発表状況

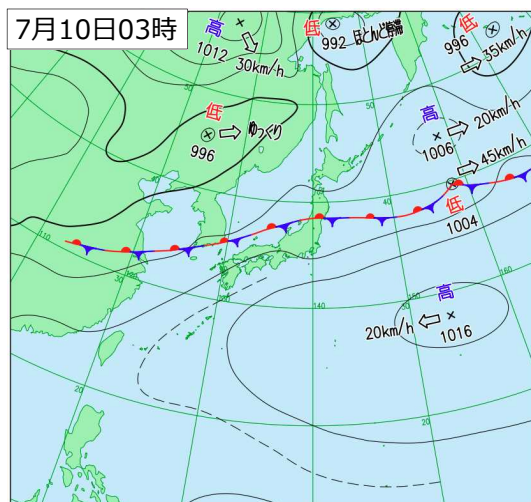
## 【気象の概況】

- ・梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、7月10日に九州北部地方で大雨となり、線状降水帯が発生した。
- ・7月10日に福岡県、大分県内の市町村を対象に大雨特別警報を発表した。

## 【線状降水帯に関する情報の発表状況】

- ・線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけは実施しなかった。
- ・7月10日に福岡県、佐賀県、大分県を対象に顕著な大雨に関する気象情報を発表した。

## ○ 線状降水帯に関する情報の発表状況



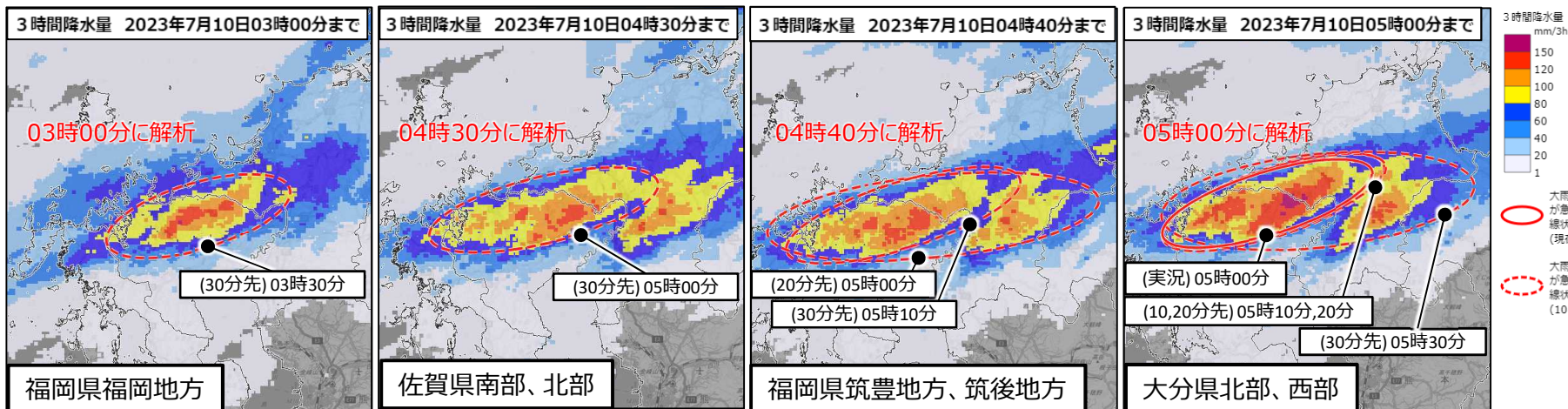
地方	半日程度前からの呼びかけ	顕著な大雨に関する気象情報
九州北部	なし	7月10日03時09分（福岡県福岡地方） 7月10日04時39分（佐賀県南部、北部） 7月10日04時50分（福岡県福岡地方、筑豊地方、筑後地方） 7月10日05時09分（大分県北部、西部） 7月10日05時20分（福岡県福岡地方、北九州地方、筑豊地方、筑後地方） 7月10日08時10分（佐賀県南部） 7月10日08時20分（大分県北部、西部） 7月10日08時29分（福岡県北九州地方、筑豊地方、筑後地方）

### 顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキル（洪水警報の危険度分布）において警報基準を大きく超過した基準を超過

# 線状降水帯の解析状況

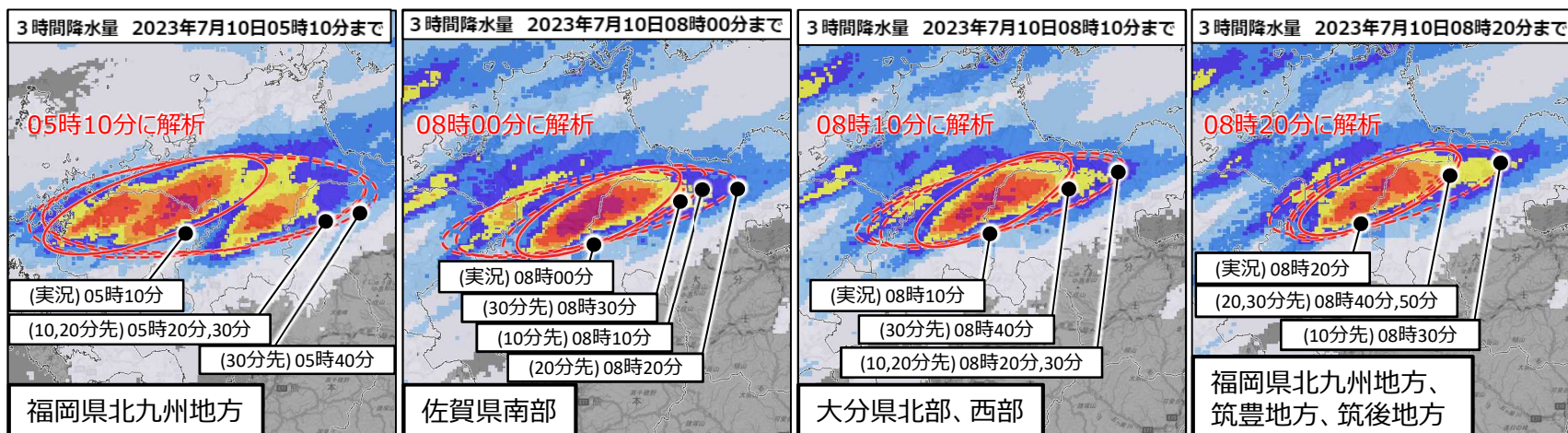


線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約180ミリ**

線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約180ミリ**

線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約190ミリ**

線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約190ミリ**



線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約190ミリ**

線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約180ミリ**

線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約190ミリ**

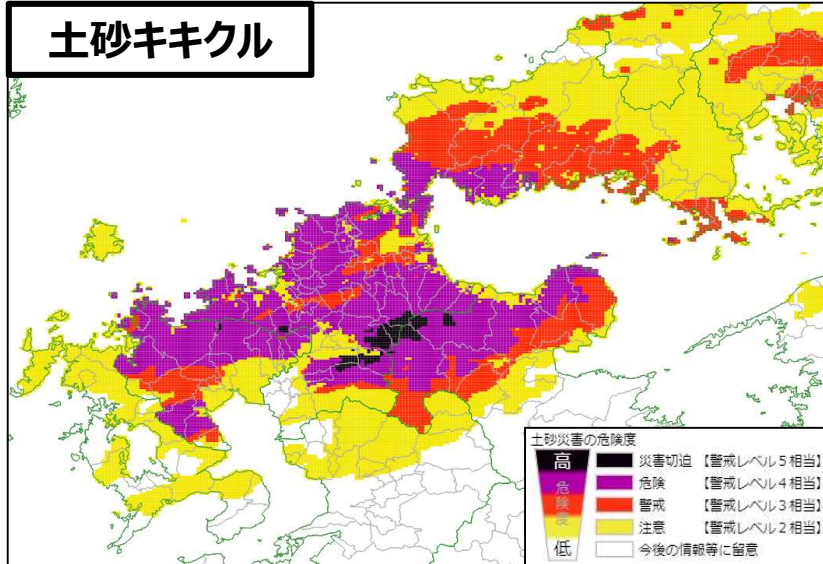
線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約190ミリ**

※ それぞれの地域において、顕著な大雨に関する気象情報の発表に用いた解析時刻の画像を示しています。

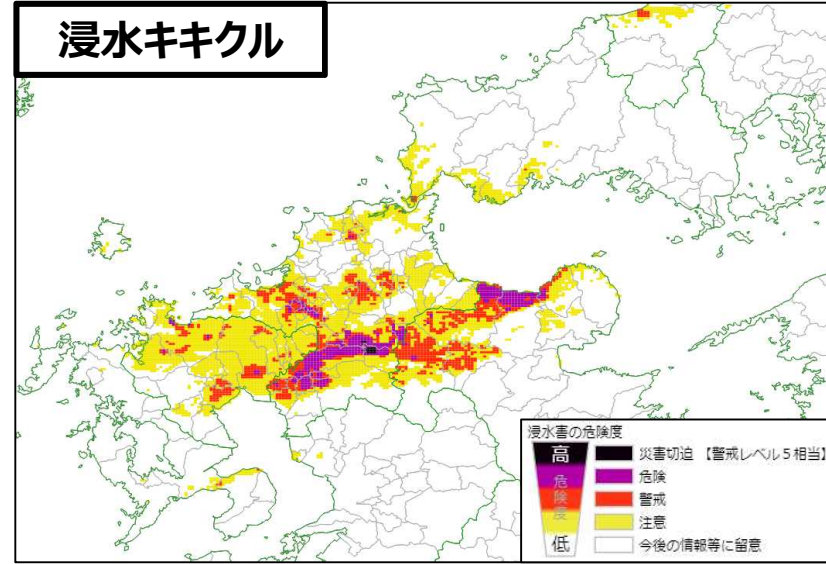
# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

7月10日：九州北部地方（山口県を含む）では、土砂キキクル・浸水キキクル・洪水キキクルにおいて「危険」（紫）が広がり、「災害切迫」（黒）も出現した。

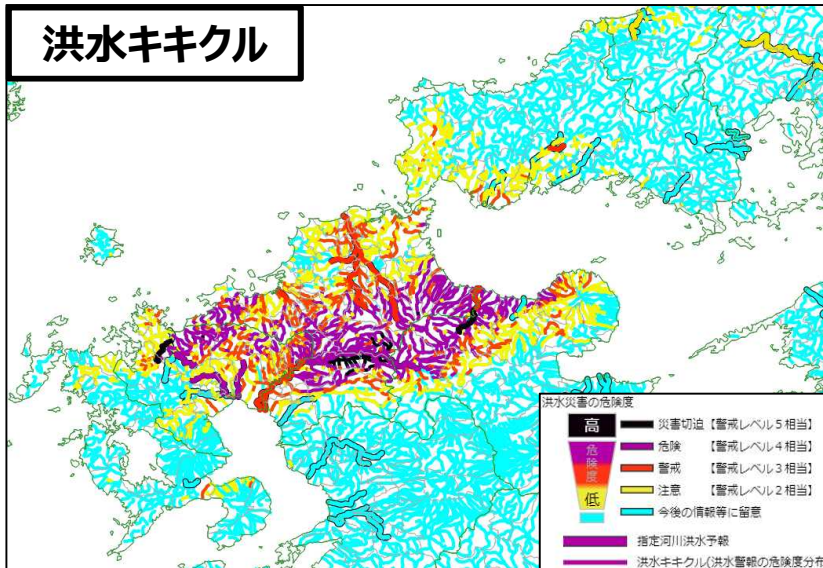
土砂キキクル



浸水キキクル



洪水キキクル



7月9日15時から10日15時にかけて出現した最大の危険度

# 本資料について

- 本資料は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した事例、又は線状降水帯が発生した事例※について速報的にまとめた資料です。  
※「線状降水帯が発生した事例」とは、前出の「顕著な大雨に関する気象情報の発表基準」を満たした場合をいいます。
- 本検証資料は「大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善」のページからアクセスできます。  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jirei/index.html>
- 関連する情報は、「線状降水帯に関する各種情報」のページをご覧ください。  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho\\_senjokousuitai.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html)
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを、地方予報区単位で実施していることから、検証も地方予報区単位で実施し、同じ地方予報区でも時間がある程度あいた場合等は異なる事例として取り扱っています。ただし、ここに掲載する検証資料は、地方予報区をまたいで線状降水帯が発生した場合等に1つにまとめていることがあります。

現在の技術では、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけを実施しても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、線状降水帯が発生しなくても大雨となる可能性は高いため、この情報が発表されたときには心構えを一段高めてください。

また、線状降水帯による大雨の呼びかけがなくても、線状降水帯が発生したり、災害をもたらすような大雨となったりすることがあるため、自治体が発令する避難情報や、大雨警報やキキクル等の段階的に発表される防災気象情報とあわせてご活用ください。